

七ヶ浜レポート 10月

つながる遊び庭・こどもアートしちがはま (月1回)

癒しの焼き芋 & 芋煮会開催！



日の光がポカポカ降り注ぐ10月13日センターさんからの呼びかけで、60組・100名の親子が集まりました。まずはキャンプ場に集まって、みんなで焼き芋大会。

次に焼き芋が焼けるまでの時間を使って、輪投げやお絵描きコーナーなどの子ども遊び場ブース、ママたちは「LUSH」さんによる癒しのハンドマッサージブースでそれぞれの時間を過ごしました。

当日は、おしゃれでかわいいスタッフさんが、素敵なお香りのするオイルやパウダーで魔法のようなハンドマッサージを施してくださいました。しかも、LUSHの化粧水やソープもみなさんにプレゼントしてくださいました。

「自分だけの久しぶりに贅沢な時間」と、ママさんたちの表情も自然と穏やかになり、旅行の話、子どもの話、地震の話など思い思いの近況を湧き出さるようにお話しされていました。

最後は、お待ちかねの「芋煮」。大なべに、にんじん・さといも・じゃがいも・こんにゃく・豆腐・豚肉・ネギなど一杯の野菜を入れて、みんなでおいしく頂きました。

この食材は、全て「あいち生協」さんより無償でご提供頂きました。

子どもだけでなくパパ・ママが集い、語り、リラックスできる場所づくりを今後も続けていきたいと思っています。



お母さんたちの

つぶやき

- ・ 仮設住宅は薄いので騒げず、子どものストレスが高まっている。
- ・ 何も無いのに痙攣を起してどうしたらよいかわからない。
- ・ 子どもと少しでも離れるのが怖い。時々余震が起こるので、なるべく離れないようにと神経質になってしまう。
- ・ 子どもの年齢が高くなっても（乳児ではない）、いつもおぶっていないと不安（お母さんの子離れができていない）
- ・ 震災後、暗いところを異常に怖がるようになった。
(地震時は停電のため、ろうそく1本で生活。それがトラウマに?)

小さな体であの日の出来事を受け止めるために、子どもたちも一生けん命戦っているんだと胸がいっぱいになりました。また、そんな子どもたちを必死で守ってきたママさんにも、ホッと一息つける場所が必要であることを改めて感じました。

七ヶ浜レポート 10月

ものづくり工房 (毎週木曜日開催)

七ヶ浜から紀宝町へ繋がる想い

10月は、台風12・15号の被害に遭った三重県紀宝町支援のために「かえるちゃんタオル人形」と「七ヶ浜の桜の木で作ったメッセージキーホルダー」を作りました。

10月に入り「新聞やテレビで台風の被害の様子を見て、各地の皆さんが経験された恐怖感や大切なものを失う辛さを思い出し、同じ痛みを感じていた。心配だった」という言葉をたくさんお聞きしました。

きずな館や仮設住宅の集会場で住民の皆さんが、1つ1つ丁寧に心をこめて手づくりして下さったカエルちゃん人形には、「必ず元の街にカエル」という願いが込められています。

お家を無くされた方、浸水の被害に遭われた方など、今も避難所で不便な生活をされている紀宝町の皆さんへ、この想いを届けるべく、多くの方々が協力して下さいました。

この応援グッズは11月5日、RSY七ヶ浜スタッフ足湯担当・七ヶ浜っ子の清水玲奈と浦野で紀宝町にお届けします！



◆ ◆ きっかけは？ ◆ ◆

紀宝町の水害支援報告を聞いた七ヶ浜町の若者が「七ヶ浜もこれまでたくさんの人たちに助けられてきた。その恩返しに自分たちができることがあれば何かしたい！」という、力強い一言で始まりました。

七ヶ浜レポート 10月

芋煮会&ガムラン演奏会 (10月23日)

野菜をいっぱい「たべさいん」



民間のアパートなどを借り上げて仮設と同じ扱いになる「みなし仮設」の方には「もの」や「人」などが届きません。そういった在宅避難者の方を対象とした催しも、月に1度行っています。今回は、在宅避難者の方へ向けた芋煮会を行いました。

企画参加者は45名程で、ボランティアの数を含めると約100名。芋煮作りは、地元のお母さん達やお父さんと一緒に行いました。人が多くかなりぎゅうぎゅうでしたが、みんなで楽しく美味しい芋煮をいただきました。



お昼ごはんを食べた後は、名古屋音楽大学による「ガムラン」の演奏です。インドネシア・バリ島の民族音楽は今まで聞いたことがなくなにか不思議で神秘的でした。そしてこの音楽を聞く一番いい場所は、なんと楽器の下だそう！「楽しかった」の声が多数あり、中には久しぶりに旧友と再会する方もいらっしゃいました。

震災の影響から、七ヶ浜から別の町に住む場所を変えた方が多い在宅避難者の方々。地元七ヶ浜町に再度足を運びきっかけになってほしいと思い、このイベントを行いました。

